

新品種の紹介

西日本でも夏秋季に安定生産できる四季成り性イチゴ品種 「夏の輝」^{かがやき}

【開発の背景】

イチゴは年間を通じ業務用に安定した需要がありますが、国内でのイチゴ栽培は冬～春がほとんどで、夏～秋は大部分を輸入に依存しています。夏秋季に栽培できる四季成り性品種もありますが、生産地は北海道や東北地方が中心で、暖地あるいは温暖地の西日本では安定生産が難しい状況でした。

そこで、西日本でも安定生産が可能な四季成り性の新品種を育成し、夏の季節感と果実の美しい光沢にちなんで「夏の輝」と名付けました(図1、2)。

【品種の特徴】

「夏の輝」の開花は夏から秋の高温・長日条件下でも安定しており、暖地でも絶え間なく開花・結実します。特に、秋季(8～10月)の商品果収量は「サマーベリー」など従来の四季成り性品種を上回ります(図2)。四季成り性品種には草勢がやや弱いものがありますが、「夏の輝」の草勢は強く、草姿はやや立性です。「サマーベリー」に比べると果実糖度が高く酸味がやや低いことから食味は良好(表1)で、光沢のある鮮やかな赤色はケーキにもよく映えます。

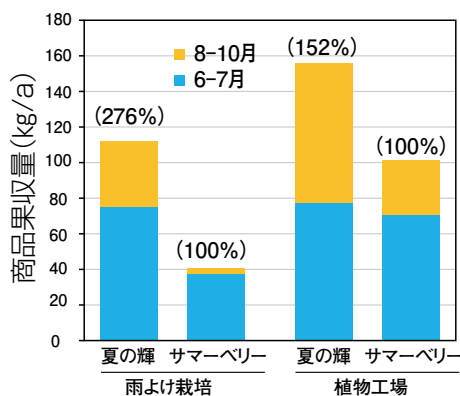


図3 「夏の輝」の雨よけ栽培および植物工場栽培における商品果収量

【期待する活用場面】

西日本以外でも全国の産地で栽培できる四季成り性品種です。太陽光利用型植物工場でのイチゴの栽培体系に「夏の輝」を新たに取り入れることで周年生産も可能になるほか、クラウン部温度管理技術やパッドアンドファン冷却による環境制御技術を併用することで、「夏の輝」の生産性をより高めることも可能です。夏秋季の国産イチゴ市場に、「夏の輝」が新たな拡がりをもたらすことを期待しています。

【園芸研究領域 飛川 みのり】



図1 「夏の輝」の植物体



図2 「夏の輝」の果実

表1 「夏の輝」の夏秋どり栽培における果実品質

栽培条件	品種名	商品果 ^a 平均果重(g)	果形	果皮色	硬度 ^b (N)	Brix (%)	酸度 (%)	糖酸比	食味
雨よけ栽培	夏の輝	8.7	円錐	橙赤～赤	1.09	8.6	0.91	9.5	やや良
	サマーベリー	9.2	長円錐	濃赤	1.10	9.7	1.27	7.6	やや良
植物工場	夏の輝	9.0	円錐	橙赤～赤	1.15	8.0	0.85	9.4	やや良
	サマーベリー	9.8	長円錐	濃赤	1.16	8.0	0.93	8.6	やや良

雨よけ栽培：福岡県久留米市で実施、2010～2011年の平均値。

2010年は6月25日から10月22日まで収穫、2011年は6月21日から10月27日まで収穫。

植物工場：福岡県久留米市で実施、パッドアンドファン冷却・クラウン冷却使用、長日処理、2012年の結果。

6月18日から10月29日まで収穫

a) 5g以上の正常果と乱形果、b) 直径3mmの平板型プランジャーによる貫入抵抗値